平成２７年度第２回石狩市行政改革懇話会

日　時：平成２７年１１月４日（水）１０：００～
場　所：石狩市役所３階　庁議室
出席者：次のとおり

委　　員			職　　員	
役職	氏　　名	出欠	所　属	氏　　名
会長	角川　幸治	○	（事務局）総務部長	佐々木隆哉
副会長	永山　隆繁	○	（事務局）総務部行政管理課長	森本　栄樹
委員	能村久美子	○	（事務局）総務部職員担当主査	青木祐一郎
委員	藤沢　和恵	○		
委員	松谷　初代	欠		
委員	向井　邦弘	○		
委員	柴田由美子	欠		

傍聴人：１名

【事務局～森本】
本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。
ただ今から、平成２７年度第２回石狩市行政改革懇話会を開催いたします。
この後の進行については会長にお願いしたいと思います。角川会長、よろしくお願いします。

【角川会長】
みなさん、おはようございます。
全体の懇話会は前回（第１回）が６月でしたので久々ですが、この間、昨年と同様にＡ班・Ｂ班に分かれて検討を行ってきました。各班４回ずつ集まり、かなり幅広い意見の吸い上げ、集約ができたのではないかと思っています。メンバーのみなさんがお忙しい中、何度も集まっていただいたことに、まずもって感謝します。
両班で検討してきた内容は、第５次の実施計画、それと来年度が終了年度になる大綱の次の大綱に関する委員提案です。
第５次の実施計画は今回の委員提案を活かして今年度中に策定されます。次の大綱は、切れ目のない行政改革の推進のために、現在の大綱の最終年度である来年度中に策定することになりますので、次期大綱に対する委員提案は来年度中に活かされるということを御承知おきいただきたいと思います。

今年度は班での検討を昨年度以上に充実させようということで、ブレーンストーミングの手法を用いて意見集約を行いました。これによって、より深く幅広い議論ができたのではないかと思っています。その成果を本日発表することになりますが、両班の意見をこの場にてさらに深く議論して、この第２回懇話会を進めていきたいと考えています。

早速、各班それぞれのリーダーから報告をします。おそらく、Ａ班に対してはＢ班から、Ｂ班に対してはＡ班から内容確認の質疑や意見があると思いますが、両班の報告が終わってから、まとめて行いたいと思います。

それではＡ班から始めます。私から報告をさせていただきます。

Ａ班の課題としては、市の協働推進をメインに、次期大綱につながる考え方について検討しています。Ａ班のメンバーは向井委員、柴田委員、松谷委員、そして私の４名です。７月から毎月１回の計４回、まさに膝を突き合わせて自由闊達な意見交換をしてきました。第１回が７月３０日、第２回が８月１７日、第３回が９月２４日、第４回が１０月２６日でした。４回とも誰も欠席することなく会議を進めてきましたが、本日の懇話会は残念ながら柴田委員と松谷委員がどうしても出席が叶わず欠席となりました。

内容は第１回が顔合わせを含めたざっくばらんな意見交換、第２回はさらに深く議論しつつ、そこからいくつかの気づきを拾いながら、次につなげていく感じで進めました。第３回はそれらをより具体化するためにブレーンストーミングという手法を用いて、意見を大きく４つの考え方に分けて進めました。第４回はまとめの回で、第３回の結果を検証しながら、言い忘れたことや付け加えることを含め、内容の確認、深掘りをしてまとめました。

それでは、説明させていただきます。

委員のみなさんから出た意見をできるだけそのまま紹介したくて、あまり加工せずに掲載しています。あえて、一つにギュッとまとめたりはしていません。

まず、協働・市民参加について思うこと、感じることについてです。

「協働提案制度などは応募が低調である。ＨＰで募集していますが、行政からの投げかけやヒントは、提案のイメージが容易になるよう、より分かり易く具体的にしていただきたい。」という意見です。

続いて、「制度面が充実していても、それが周知されなければ活用できない。もっとＰＲの方法を工夫すべきである。」という意見があります。

さらに「市民がより参加・提案しやすいような仕組みにして欲しい。手続きが難しいのでは？というイメージが一般的にある。煩雑な手続きを軽減したり、専門的な表現を避けるなど、表現を平易にして協働提案の制度自体のＰＲに努めるべきである。」という意見が出ています。

また、重複する内容になりますが、「市民目線での表現が必要である。内容に関しては必要なものは盛り込まれているが、もう少し平易な表現、例えばイメージ重視、あるいはイラストを使うなど、もっとシンプルにして欲しい」ということです。

そして、まとめ的な意見になりますが、「そもそも協働提案制度事業という存在自体、ＰＲ不足で市民の認知度が低いのではないか。」つまり、このような制度があること自体をもっとＰＲすべきだということです。営業に例えると、クモの巣営業とか、ミツバチ営業という言葉がありますが、クモが巣で待っているように市民からの申し出を待っていてはダメで、行政側から積極的に団体あるいは個人に働きかけをして、このような制度がありますよ、利用してはいかがですかとＰＲすることが必要ではないか、という意見です。その例として、その次の項目に挙がっている「いしかりまちづくりディスカッション 2013」という石狩青年会議所が実施した協働事業が革新的な良い取り組みだということで、いろいろな会合でも話題に上っています。そのような良かった取り組みは継続して実施していけばいいのですが、もちろん相手があることなので、相手方の団体から「できない」と言われてしまえば、それまでの話ですが、来年も続けてみてはいかがですか、という積極的な提案が行政側からあったかと言うと、おそらくなかったのではないかと思います。

次に「市民は情報をネット、個人の書き込みやブログなどで得ていることが今は多い。市のホームページは、完成度は高いようですが、利用度は決して高くはない。アカウントを増やす工夫をすることや、民間のホームページの手法、例えば色使いの工夫やコメント、イントロの部分で惹きつけるなどの手法を参考にしてみてはどうか。」という意見です。

次に「２次的な広がり、参加者が代わってブログなどで発信するといった手法もあります。」という意見です。

次に「各種計画の次回の策定時においても市民の声をもっと聞ける工夫をして、市民の声を反映し、計画の趣旨が継続するようにするべきである。」という意見です。

続いて「ライフサポートという仕組みのように、事業を市民独自で行うよりも、市職員と協働して手助けがあると、より充実した内容に出来る。」です。これは松谷さんと柴田さんが強調していた意見です。

「具体的には、ターゲットを絞って直接働きかけることが有効である。たとえば、子育てを行っている若い母親が、意見交換できる母親サロンのような場を設定して提供すると、若い世代の石狩への移住にもつながる。そのようなアピールにもなる。」そういった子育て世代のほかに「若い世代が参加したくなるようなイベントの企画を行うべきである。そのためには、若い世代の興味のある事柄、トレンドの調査研究を行ってみてはどうか。」というのも意見として出ました。

そして、「子育てサロンと高齢者サロンを融合させ、安心して子育てが出来る環境づくりを行う」ということで、既存の活動を連携させることになりますが、そういった取り組みもいいのではないかという意見が出ました。いろいろな技術や経験を持っている高齢の方のノウハウ、それと子育てに奮闘している世代の融合というのは、非常に面白いアイデアだと思います。このように場を提供する、情報を提供する役割が行政に求められています。

続いて、次期大綱に移ります。これについては、行政に期待すること、改善希望、不満の３つに分けて意見交換しました。

まず、一つ目の「行政に期待すること」です。

「行政が様々な努力を行っていることで、一般市民に認知されていないことが多い。」です。市役所がやっている良い取り組みはいっぱいあります。班の中でも結構そういった議論になりました。ここがダメ、こうした方がいいという話しだけでなく、非常に良いこともやっているので、そういったところを市民にＰＲしていくことも必要ではないか、という意見が出ていました。

次は「市役所側の仕組みづくり、豊富な情報提供が求められている。」「わかりやすいビジョン提示、イメージ戦略が必要である。」です。今、インターネットもこれだけ普及しているので、若い世代を中心にイメージというものが非常に大事で、その良し悪しによって、方向性が全く違ってきます。イメージが悪いと全体に影響が出てしまい、良いものだとそれを有効に活用できる、そういった時代になっていますので、イメージ戦略を念頭においた方がいいのではないか、ということです。

次は、よく出てくる話題ですが「新たな観光資源の創造、石狩の名所とは何なのか 。」その次もそうですね。「これというものがないのが弱点。特徴を出し切れていない。」です。これについては、観光協会に任せておくだけではなく、行政も積極的に石狩の名所づくりに関与してみてはどうかと思います。というのも、その次にありますいしかりバーガーやＷＥＳＳが主催するライジングサン、また、佐藤水産などが石狩の成功事例であります。こういった民間に学ぶべきところは学んでいこう、今あるネームバリューや観客数をどのようなプロセスで獲得し成功してきたのかを積極的に学んでいいのではないかと思います。事業者側も情報を提供してくれるはずです。そういったことを学び、行政が主体的に牽引していくべきでないのか、そうしなければ、なかなか観光名所はつくれませんよね。

次は「市民はなかなか声を伝えられない。現場の声を聴く場として、町内会など小単位のグループに市職員が来てもらって話し合える場を設定してほしい。」です。

次は柴田さんから事例紹介があったことですが、「３年前に女性連絡協議会の全道総会を開催した際に、直接市長にピアノの手配を陳情したところ、最終的に市長の総会出席に繋がって大変感激した。」です。市長に直接陳情する機会というのはなかなかありませんが、たまたまその機会があったわけです。それに対して市長が積極的に動いてくれた、しかも、最終的には総会にも出席してくれたということで、それを聞いてみんな感激したわけです。まあ、これは特異なケースで、なかなか一市民にそういった機会があるわけではありませんが。

続いて「地域に話したいことがあるときに聞いてもらえる、気軽に聞ける窓口があれば良い。」それに対して、次に「市役所コンシェルジュのようなものがあれば良い。」とあります。もっと気軽に市民が意見を言えて、それを吸い上げて集約し、迅速に各部局に伝えて対応してもらう、そういった総合的な窓口があれば良い、ということです。「昨年度の懇話会でも再任用を使ったコンシェルジュについて提案がありました。例えば市役所の窓口であったり、ネットの窓口であったり、電話や直接対応であったりですが、そういったものを設けてはどうか。」苦情や問合せの電話のたらい回しといったことがよく言われます。

それと、最初に対応した人の印象が悪かったら、もうその役所はダメだ、となってしまいますね。ですから、最初に対応する人が非常に重要になります。しっかり教育して、そのために民間のノウハウに学ぶのもいいと思います。そうすると市役所のイメージもグッと良くなるという意見でした。

そして「長期的な視野に立った指針・ビジョンを提示すべきである。」です。先ほど話しに出た観光名所のこともそうですが、目先のことだけでなく５年計画や１０年計画を立ててということです。もちろん今でも長期的な視野に立ってやっていて、その一環がこの行政懇話会なのですが、そういったものを具体的で見やすく、誰でもわかりやすく提示して欲しい、という意見でした。

次に進みまして、二つ目の「改善希望」です。

まず「街路樹などの花壇の整備を計画的に実施して、町内会による差をなくすなど、行政との連携の具体例を紹介すべき。」という意見がありました。

続いて「各地域の交通アクセスについて」です。これも観光名所と同様にどの会合でも出てくる話題ですが「難しい課題だが、継続的なアイデア、意見交換を。」という意見で、他の自治体から学ぶことも継続的にやっていただきたいところです。

続いて、先ほども出ましたが「深層まで行かないと見えない市のホームページ」です。何か情報を探す、あるいは様式をダウンロードするのに、１回開いて、さらに開いて、さらにもう１回開いて、という具合に深くまで進んでいかないとアクセスできない、というのが弱点の一つだと思います。このあたりも他の自治体のホームページの良いところを取り入れて、著作権があるわけではないと思いますので、参考にしてみてはどうかと思います。

次は「書類の簡素化」です。いろいろな手続きをするのに書類が必要ですが、今はネットなどで簡単にできる仕組みがありますので、できるだけ簡素化を考えていただきたいということです。

次は「７０歳以上の温泉バスを６５歳以上にしてほしい。浜益温泉へのバス対象者の見直し」です。

次は、特に厚田・浜益地区についてですが「移動販売車の継続してもらいたい」です。高齢化に伴い自分ひとりでは買い物ができないとか、店舗が集約されたり、個人商店が営めなくなったりして、近くに店がなくなってきています。トドックなどの移動販売車の拡充が望まれます。

そして「空き家対策」です。今も市として取り組んでいますが、ますます大きな問題になってきていますので、継続的な対策をお願いします。

三つ目の「不満、全体として思うこと」に進みます。

まず「郷土の歴史を見つめよう」です。石狩川がありますので、それを中心とした歴史を今一度学ぶ機会があれば、ということです。郷土の歴史を見つめ直すところから、観光名所の発掘などにもつながっていくのだろうというところです。

次の交通アクセスに関しては、先ほどもお話しをしましたが、ＬＲＴというのは路面電

車のもう少し高速鉄道に近い、地下鉄と路面電車の中間くらいの感じのものです。世界に目を向けるとＬＲＴが有効に使われていますが、軌道系交通が石狩市６万人の人口で開設されるかというと、現実的には不可能ではないかと思われます。ただし、いろいろなアイデアを用いることにより可能性は探っていくべきではないかと思います。バスと鉄道の中間のようなビークルもありますし、予算をかけられない中で可能性はないのか考えると、唯一可能性があるのはこのＬＲＴではないかと、私は思っています。

続いて「家族で楽しめる施設」です。市内に家族で楽しめる、できれば無料の施設というのはなかなかありません。札幌市でいうと百合ケ原公園などがあって、子どものニーズにあわせて親もいっしょに楽しめるのです。そういった施設が市内にもあればいいねということで、班の中で話しが盛り上がりました。

次は「地域の実態・状況を細かく把握してほしい。厚田地区の医療バス停留所の改善をしてほしい。」です。

最後に「移住者を増やすにはどうするか。移住者のターゲットを絞っていくべきだ。」とあります。若者、高齢者、あるいは手話条例の制定などもあり弱者に優しいまちというイメージが出来つつありますので、そういった意味でもターゲットを絞って移住者への働きかけをしていく、ということです。手当なども手法の一つとしてあります。「他の自治体から盗む、恵庭の花の街、北広島のコストコ、三井アウトレット」とあります。盗むというと表現は悪いですが、他の自治体を参考にするという意味で、私はこれを強くお勧めしたいと思っています。

さて、市の協働推進に関しては青木主査さんから石狩市の協働・市民参加の現状や他市の事例について説明を受けましたし、各委員の経験と見識に基づいて議論を進めてきましたが、提案が抽象的であったり、また一方では具体的で細かい部分もありましたが、最初に申し上げたように、みなさんからの意見をできるだけ加工せずにそのままご紹介いたしました。その真意や趣旨を汲み取っていただければと思います。

私からの発表は以上です。

続いてＢ班の発表を永山副会長からお願いします。

【永山副会長】

まず、Ｂ班の流れを説明しておきます。第１回はフリーディスカッションでいろいろ意見を出していただきました。それらの意見をもとにして第２回で第４次実施計画を見ながら問題点を出していくというやり方をしました。今後に向けてのバックグラウンドとなる検討を第１回、第２回でやったわけです。第３回からは今後の改革についての検討ですが、私からＫＪ法（出したアイデアを統合し、新たな発想を生み出したり、問題解決の糸口を探っていく手法）のブレーンストーミングの手法を用いてやってみようと提案しました。項目としては、市役所に期待すること、改善して欲しいこと、現状での不満について意見を出し合いました。それと改革ではどのようなことを目標にするのか、大綱に関わる基本

目標については「魅力ある石狩づくり」「魅力ある市役所づくり」がいいのではないか、ということになりました。いろいろ出た意見について第４回で、これはＫＪ法の第２ステップになりますが、グルーピング（類似した共通点のあるアイデアなどをまとめる作業）をしてみました。本当はグルーピングで意見をある程度まとめて、その中からどうしていくべきか方向性を出していくのですが、きっとＡ班でも議論されていて、この懇話会でより議論が深まるのではないかということもありまして、方向性についてはＫＪ法の第３ステップ（図式化）は行っていません。懇話会上で議論していくのか、市で考えるのか、ということになろうかと思います。

グルーピングした意見を「Ｈ２７．１０．５　Ｂ班検討会」というペーパーにまとめています。

まず、一つ目が「魅力ある市役所づくり」です。そのうち、「市役所に期待すること」として、土日の受付やワンストップサービス、気軽に相談できる窓口体制、昼休み中の窓口対応もあるのでフレックスタイム制はどうなのか、なども意見として出ていました。次に「市役所内部」については、安心して暮らせるまちづくりということを目標に、人に優しい行政、それから他の自治体に住んでいる職員への対策が必要だろうということで、何故そちらに住んでいるのかを分析する必要があるのではないか、市役所は生活・生きることの応援者であるべきではないか、という意見です。それから、行政を進めていくうえで「当事者の身になった企画・施策」をとっていく必要があるだろう、という意見がありました。市民との意見交換などです。また、これから問題になってくるのが「高齢者」のことです。特に、新たな取り組みを行う際には高齢者に優しい行政、例えば相談窓口を設けるなどしていくべきではないか。マイナンバーでは既に詐欺被害が出ています。そういったことが起きないようにすべきということです。それと、私の町内会でもそうですが、一人暮らしの高齢者が増えています。ここをそのまま放っておいていいのか、という意見が出されています。ちなみに私の町内会では月１回、一人暮らしの高齢者を対象とした昼食会をやっています。北コミで女性部の人たちを中心に昼食を用意しています。その際、ずっと来ていたのに今日は来ていない人がいると、「あら、どうしたのだろう」と気に掛けるようになります。そういったことも方策の一つだと思います。次は、マイナンバーとも関係しますが、「セキュリティ」です。いろいろ問題が起きたところの事例を見ますと、職員のセキュリティ知識が不足しているのではないかと思われます。どうして、こんな当たり前のことができていないのか、私からすると不思議なのですが。セキュリティ教育は、手口が巧妙になってくることがありますので、毎年行う必要があるのではないかと思います。それと各部、各自のパソコンのセキュリティ対策については、他の行政機関の事例を見ますと、職場で使っているパソコンから漏れている、データを家に持ち帰って漏らしてしまうということがあります。職場で大事なデータを扱ったパソコンを家に持って帰るなどということは、もっての外です。セキュリティリテラシーの教育をきちんとすべきではないかと思います。次に「楽しみが感じられるまちづくり」です。こういう視点で行政を進めていく

べきではないかと思います。

「仕事の仕方・考え方」に関してＢ班で最初から最後まで出ていたのが「職員が楽しくなるような仕事の仕方」、これをきちんと進めていくべきではないのかということです。

２割のプラスアルファということで、少し余力を持ってやっていくことも必要だろうし、一つのことに振り回されない目標の設定、また、職員が上司から言われて嫌々やるようでは発想が湧いてきませんので、誰のために仕事をしているのかを常に意識することにより新しいやり方も出てきますから、納得作業という点が大事ではないかと思います。

グルーピングした二つ目が「魅力ある石狩づくり」です。まず、Ａ班とも議論が一致してくる部分ですが、まちの再構築です。先ほどのＡ班の発表にもありましたが、集まれる場所がない、ということが大きいです。例えば、子どもが休みの日にどこか遊べる場所があるのか。札幌では天気のいい日は大通公園などにみんな集まって水場で遊んでいますよね。このように、いろいろな層が楽しめる環境について考えていく必要があるのではないかと思います。次に「ご当地グルメが一堂に食べられる場づくり」です。このような店について新聞などに掲載されることがありますが、それがどこにあるのか知らなかったりすることがあります。また、マルシェ的な共同運営などもやってみてはどうかと思います。出ていた意見では、自分で食べられる環境や子どもの食べることへの関心を高める工夫についての意見がありました。あと防災問題ですね。

それから、石狩は外から来た人に見せるもの、体験でもいいのですが、そういった場所はあるのかということ。小さいものはいろいろありますが、たとえば、とれのさとに行けば地元の新鮮なものがたくさんある。そして安い。実際に札幌からも人が来ているようですが、そういった外から人を呼べる場所をつくることが必要なのではないか。石狩はこのあたりでは最初に拓けた場所であり、石狩が札幌やほかのまちをつくってきたということがあり、いしかり市民カレッジでも村山耀一さんが、市内の石碑を廻るということをやっていまして、そういったものを聞くとかなりいろいろなものがあります。バスで札幌から来て、見て廻れる、あるいは食べられる、そういったツアーを考えられるのではないか。

ほかのまちでもやっていますが、北海道に新幹線が来るのでこのお客さんを自分の地域に引き込むのか、ということが白熱しています。日高・胆振地区だと北斗市からバスで直接、地元の食材なり観光してもらおうと　ことも考えていますが、とりあえず北斗市、札幌まで来るわけですから、そのときにどうするか　石狩に呼び込む手段を考える必要があるのではないかということです。石狩を元気付けていくうえでは、そういったことが必要なのではと思います。

以上です。

【角川会長】

ありがとうございました。

Ｂ班でも大変に盛り上がっていろいろな話が出てきていると思いながら聞いておりました。また、皆さんが思っていることには重複する部分があるなということを感じました。

【永山副会長】

もう一つご紹介したいことがあります。

先日、石狩市民カレッジで人口減少社会をどう生きるかということで、石狩についてもかなり触れられました。人口減少についてどうするのかということで、今まで議論していた中身と関連してきます。そのなかで地域の消滅がありまして、２０１３年４月１８日の道新の記事「高齢化もう限界」南区澄川の事例にもあるとおり、このままでは維持できない、買い物にも行けない、除雪もできないということです。講演は札幌市立大学の原教授で、日本人口学会の会長もされており、人口問題の日本のトップということです。石狩市も３０年後の高齢者は今の１．８倍になる。人口、少子高齢化し、生産年齢人口の中核になる人たちが就労などでまちから出て行く、そうすれば高齢者だけが残る、その比率が高まってくる。危機感は、黙っていると確実に危なくなる。その危機は確実に来るので、対策もしなければならない。この先生のおもいきった提言は、これからの主役は高齢者であるというのです。第一次ベビーブームの人たちというのは、いまちょうど６５歳ぐらい。その人たちは仕事も２つぐらい就き、お金も持っている。高度成長期を経ているので、貯蓄もある。ということで、ここに頼るべきではないか。加えて、女性の場合には、さまざまなことを経験・行動し、平均寿命も長いわけです。ですので、女性の力というのも考慮する必要があるのではないかということで、行革を考えていく上でも重要なポイントではないかと思いました。

蛇足ですが、私が前にも申し上げたことがありますが、市民カレッジは地元に即した講座があります。ぜひ、市の職員が情報を得るために参加してはどうか。市役所内部を見ているだけではダメなのです。以前から市民との交流という話をしていますが、自分たちが職場の中だけで、課題について考えて進める、ということではどうしても発想が狭くなる。そのような学習の機会に、積極的に出ていただきたいなと思います。これは余談ですが。

以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。

実は私も原先生とは面識がありまして、以前の総合戦略策定の際に同じメンバーでした。先日も国の総合戦略の関係で、一つの資料をご一緒に作りましたが、原先生に人口ビジョンについて資料を作っていただきました。かなり細かく分析されたのを、発表されました。かなり強気のビジョンなのですね。今言われたように、シニアを中心にした人口構成にならざるを得ませんが、シニアの力を活用すればまだまだ元気なまちづくりができるということで、力強い提案をしていただきました。勇気をもらいました。そのようなことで、原先生のお話をご紹介いただきました。

それでは、活動報告についてご質問、内容等で分からないことがあればお願いします。

共通している意見がありますが、それは逆にそれが大きな課題になっているということもいえると思います。

【能村委員】
全体の印象ですが、むなしいなと感じました。
たとえば、市のＨＰは作り直してまだ１年ですよね。でありながら、それ以前イ出ていた問題が、また言われている。それから交通アクセスについて、ＬＲＴについては５年ぐらい前の講演会で聞いたことがあります。そのように、話のなかで繰り返し出てくること。それはメンバーが違うから仕方がない、それからすぐにできる訳ではないので、また、うまく行かないこともあるので。しかしもったいないと思います。過去に努力したことがゼロに戻ったり。現状の認識をこのメンバーでは押さえたいと思います。たとえば、濃昼で行なわれたトレイルランニングはどれだけ知られているのか。今年の厚田ふるさとあきあじ祭りは地面が見えないくらいの人で一杯になり、並ぶお店は厚田地元の人たちのもので、地域色あふれるお祭りでした。ライジングサンに比べると、規模は小さいかもしれませんが、成功事例ですし、行政が携わる事例としては地域一体型の素晴らしいお祭りではないかということを、伝えるべきです。また、市役所の職員も言われ仕事ではなく、納得して自ら進んで行なえることが、いい仕事に繋がると思うし、市民に説明する際も、来た方の立場になって説明できれば納得して帰られると思います。

【角川会長】
Ａ班の提案にご意見を頂きまして、正直、耳が痛いなと感じました。私の情報不足ということもありますが、逆に言えば、ＨＰや観光資源など、まだまだ未達成で進歩する余地がありますし、繰り返し要望していくことに意味があると思っております。原理原則の話も多いですが、改善の余地があれば上げていくべきだと思います。ＨＰはもしかしたら我々の古いＨＰのイメージで話しているのかもしれませんが、決してそうではなく見やすさ、分かりやすさ、市民目線で改善が必要であり、取り組みを継続する、見える化を実践しなければならないと思います。非常に勉強になりました、ありがとうございました。

【向井委員】
市の職員で石狩市外から通う職員にその理由についてアンケート調査を実施する必要があるのではないでしょうか。また、石狩市から転出した職員にもアンケートをし、分析する必要があるのではないかと思います。
それから、ふるさと納税はそれほどではない。それは、石狩から出て行った人の関心が

ないのもあるのではないか。
　永山副会長のお話ですが、Ｂ班の言う人口増に繋がる施策はなかなか望めないとは思いますが、人口減に対応する施策をどう考えるのか、対策が必要かと思います。段階の世代の活用や高齢化社会に対応する石狩市の考え方。若い世代ばかりでなく、どう石狩を見つめていくかということは、高齢者を抜きにしては考えられない。そのためには空き家対策も必要ですし、女性の活躍も必要かと思います。

【藤沢委員】
　Ａ班もＢ班も、角度は違いますが同じことを思っているのだなと思いました。
それと、私も参加させていただいた２０１３年のまちづくりディスカッションでも同じような課題が出されていました。もう少し引いた目線で、対極的に考えるほうが大事な気がします。先ほどから、人口減少のお話がありますが、これ抜きには考えられません。これからは拡大の世の中ではなく、減少の世の中で、成り立つように考えるということは余程内容を充実させないと、企業はもとより市町村も生き残れない。石狩市も他の市町村に負けない施策を、市民も意見を出しながら、詰めないといけないのではないかと考えております。人口が固定的なら、魅力ある石狩を作り、どのように人を呼ぶか。移住も一つですが、日常的に足を運んでもらうために、やらなければいけないことはまだまだあるのではないか。先進市の視察ですとか勉強会ではありませんが、そのようなことに触れながら石狩市を見つめなおすことが大事だと思います。

【角川会長】
　対極的な視点は大事ですね。そこから見つめ直すことは必要だと思います。

　Ｂ班のＩＣＴ化の取り組み、業務改善についてですが、私はいつも申し上げていますが、劇的に変えることが必要だと思っています。それは間違いなく民間のノウハウです。業績を挙げている人、効果を上げている会社について真似をする、しつこく申し上げますが大きく参考にすることが必要です。民間で業績を伸ばしているところは、経営コンサルの指導を受けながら、成功事例だけを愚直に行なっている。会社の大小に関わらず、成功事例を取り入れているところは業績が伸びています。もちろん、そのためには社員の意思統一、価値観の共有が絶対必要です。これができた前提での話しなのですが、たとえば当社も取り組んでいるのは、朝礼なり会社の経営方針を唱和するとかで形から入ること。また、毎朝、環境整備として社員全員で社内の掃除をする。そのようなことに愚直に取り組むことによって構成員の意思統一、価値観の共有を図る。そこから始まって、みんなが同じ方向を向くという前提の下、業務改善を行なうということで、たとえば情報の一元化を行なうことです。クラウドを遣うなり、紙を壁に張り出すなり。業績が伸びている会社は、間違いなくそのような意思統一をして、情報の共有をしっかりして、**iPad** を持たせるとか、Web

上で稟議書のチェックを行なうなどを徹底している会社は伸びています。行政でそのようなことができるかは、いろいろな問題がありますから難しいでしょうし、これだけたくさんの職員がいて意思統一させるのは難しいと思いますが、やってみる価値はあると思います。それにはやはり外部からの指導を受けなければなりません。そのような機会は充分あるとは思いますが、形から入るしかない、心の教育、職員の意識を変えていく、セミナーをやってみなさんこうしましょうといってもなかなかできません。そのためには、形から入る、決まり事としてはめていくしかない。経営コンサルのノウハウを積極的に取り入れるのも一つの方法です。

ほかにいかがですか。

柴田委員と松谷委員も今日はお見えになりませんでしたが、いろいろと面白いお話もお聞かせいただきました。

それでは各自ご意見を頂きましたので、次期大綱及び第５次実施計画に係る委員提案については終了したいと思います。

各班の思いが詰まっている内容になります。表面的にできることできないことはあると思いますが、そのような判断をするのではなく、提案の趣旨をぜひ汲み取っていただき、幅広い検討を行い今後の実施項目、そして次期大綱の考え方に積極的に活かしていただきたいと思います。

各班あわせて８回の検討を頂きましてありがとうございました。

事務局に何かございますか。

【能村委員】

たとえば空き家対策で今年はこのようなことを行ったとか、革新的であるまちづくりディスカッションの良いところはこのようなことというような、我々の２次的な発信も含めて、現状の進み具合を認識できるもの、コンパクトにまとまったもの、資料としてでも結構ですので、きちんと意識することで何をやったら良いのかに結びつくものになればいいなと思います。お願いします。

【永山委員】

KJ 法について、これからどうしていくべきなのか、現状の何を改善していくべきなのか、という方向性まで高めたいので、次の実施計画の際に市役所から出るのか、私たちのほうで出していくのか。私もぜひ難点かは進めて行きたいと思っておりますので、たとえば、女性が元気ですので、シニア層意見を活用して楽しいまちにする方法のプロジェクトを作っていくのかなど、ぜひそこまで踏み込んで行きたいと思っております。

【森本課長】
　能村委員ご提案の現状分析については、詳細なここの分析ができるか、今後どのように結びつくか分かりませんが、できる範囲で資料として作成したいと思います。

【能村委員】
　ひとまずは、詳しくなくても良いと思います。

【森本課長】
　永山副会長のお話にも関係しますが、両班のご意見を拝見すると、大きく見れば、まちづくりの総合計画絡みのお話と、行革に絡むお話があろうかと思います。行革を議論していけば最終的にはまちづくりと市民サービスにつながるものですから、それぞれが混ざり合った内容になっていると思います。現在、総合計画の基本構想に基づいた地方版総合戦略の議論が終わり、さまざまな項目が出ておりますので、また、女性活躍関係であれば、男女共同参画計画などもありますので、そのようなものと照らし合わせ選別しながら行革にふさわしいものをリストアップしながら、先ほどの現状分析もあわせながら資料の作りこみをしたいと考えております。まちづくり関係であれば、この行革懇話会に馴染まない、つまり、他の審議会の守備範囲になりますのでその辺を分けながら詰めさせていただきたいと思います。

【能村委員】
　そのような情報をいただければ、私たちも今にあった意見が出せると思います。

【角川会長】
　確かに総計とかなりかぶっていますね。

【森本課長】
　最終的にはここに行き着くのかなとは感じております。

【向井委員】
　あと、空き家対策では、相続問題が重要になってくると思います。相続問題で資産を手放せば空き家にもつながりますので、そのための講習なり講演も必要になってくるのではないでしょうか。

【角川会長】
　ありがとうございます。
　次回は、第５次実施計画案として示されることと思います。

事務局から何かありますか。

【森本課長】
両班ほぼ毎月お集まりいただき、かなり踏み込んだ議論を頂かないとこのような貴重なご提言は頂けなかったと思います。このご意見につきましては、先ほど申し上げましたとおり、総計などの分野とも分けながらどういう形で実施計画に反映できるか、時期的には２月の次回懇話会でお示しし、そのまえに資料をお示ししたいと考えております。
本当に長い期間、ご検討いただきましてありがとうございました。

【永山副会長】
最後に是非皆さんにお願いしたいのは、市民カレッジの HP にある原先生の人口減少のお話をご一読頂きたいと思います。大変参考になると思います。

【角川会長】
ひとまちしごと創生総合戦略の後段にも原先生の人口ビジョンのお話が載りますので、ご覧頂きたいと思います。
それでは来年２月ごろ、時間は空きますが、何かございましたら事務局にお問い合わせください。
お疲れ様でした。

（閉会）

平成２７年１２月１６日　議事録確定

石狩市行政改革懇話会　　会長　　角川　幸治